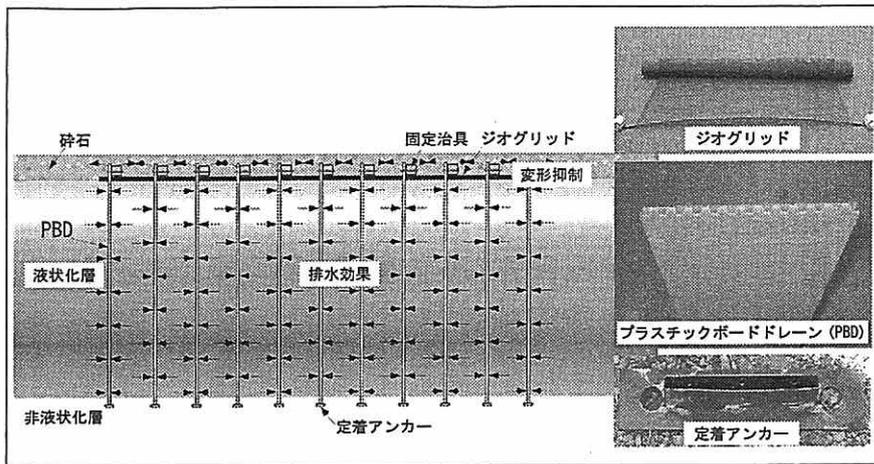


(第3種郵便物認可)



R P D工法の概要

砂地盤

P B Dで液状化防止

浅沼組、不動テトラ
錦城護謨 コスト4割減

浅沼組と不動テトラ、錦城護謨の3社は27日、プラスチックボードドレーン材（PBD）を用いた液状化対策工法「RPD工法」を開発、4月8日に土木研究センターから建設技術審査証明書を取得したと発表した。主に砂地盤の対策工法で、地震時の地盤の変形を抑制するとともに、PBDの排水性能で地震時の地盤内水圧の上昇を抑え、液状化現象を防止でき

る。地盤排水工法で主流のグラベルドレーン工法より約4割安くできるといふ。3社は、周辺環境への影響が少なく、既設構造物の近くや市街地などでも施工でき、震度6弱以下の地震動でも地盤が液化化しない経済的な工法を研究、プラスチックの心材の周囲をプラスチック不織布で形成したPBDを用いる新工法を開発

した。この工法は、PBDの先端をアンカーで非液化層に定着させ、地表のPBD頭部をジオグリッド（土構造物補強用ネット型シート）と固定治具で連結する仕組み。千鳥状に打設するPBDの頭部をジオグリッドで連結

することによって、地盤をPBDとジオグリッドとで囲み、囲まれた地中領域の土粒子の移動を抑え込む。表層部は砕石を敷き、地下水を表面で放

散できるようにする。PBDは目詰まりがしにくく、経年劣化も少ないため、半永久的に排水機能を確保できる。比較的軽い資材のため運搬が容易で、連続打設も可能

なため、施工時間も短縮できる。また、ウォータージェットを併用しながらケーシングで圧入するので、騒音・振動が少なく、掘削残土発生量も少ない。

た場所でも施工できたため、既設構造物への近接施工が可能という。これまで浅沼組技術研究所（大阪府高槻市）の敷地内で、PBDを60センチピッチと1メートルピッチで打ち込み、延べ200平方

方メートルで試験施工を実施。今後、実際の地震動が加わった地盤の状況を解析し、新工法の効果を検証するとともに、パイロット事業などへの適用を進めていく方針だ。